

平成 30 年度

病虫害発生予察特殊報 第 2 号

平成 31 年 (2019 年) 1 月 31 日

茨城県病虫害防除所

TEL : 0299-45-8200

レタス黒根病 (仮称) の発生について

病 害 名 : レタス黒根病 (仮称)

病 原 体 名 : *Thielaviopsis basicola*

発 生 作 物 : レタス

1. 発生確認の経過および国内での発生状況

- (1) 平成 30 年 10 月, 県西地域の露地レタス圃場において, レタス根腐病とは異なる根部の褐変症状と, 生育不良の症状が確認された。千葉大学大学院園芸学研究科に同定を依頼した結果, *Thielaviopsis basicola* が分離され, 本県では未発生のレタス黒根病 (仮称) であることが確認された。
- (2) 本病の国内における発生は, 群馬県において初めて確認され, 平成 30 年 5 月に特殊報が発表されている。その後, 同年 11 月に静岡県および長野県でも特殊報が発表されている。

2. 病徴

- (1) 地上部では外葉の黄化, 生育遅延 (写真 1) などが認められ, 症状が進むと結球しないなどの生育不良となる。
- (2) 根部の症状は, 根の一部が帯状に黒変, 隆起して根表面に亀裂を生じる (写真 2)。病徴が進行すると, 根全体が黒変し, 細根が腐敗脱落する。

3. 病原菌の特徴と発生生態

病原菌は, 糸状菌の一種で土壌伝染する。罹病部に分生子や厚膜胞子 (写真 3) を形成し, 罹病残渣とともに土壌中に残留して次作の伝染源となる。なお, 厚膜胞子は土壌中に長期間生存が可能である。本菌に対しては, 品種間で発病程度に差異があることが示唆されている。また, *T. basicola* による病害は, ナス科, マメ科, セリ科, アオイ科作物など広範な植物で報告がある。

4. 防除対策

- (1) 現時点では, 本病に対する登録農薬はない。
- (2) 連作により土壌中の病原菌の密度が高まるため, 過度な連作を避ける。
- (3) 本病の発生が確認された圃場での作業は最後になるよう計画し, 作業終了時には, トラクターなどの農機具類, 長靴等汚染土壌が付着している可能性があるものについては, ていねいに洗浄して, 他の圃場に拡散しないようにする。また, 明渠を設置する等して雨による土壌の流出を防止する。



写真1 接種による地上部の症状（右が発病株）



写真2 接種による根部の黒変症状（右が発病株）



写真3 病原菌の厚膜孢子

(写真は千葉大学大学院園芸学研究科 提供)